

東海道川崎宿めぐり

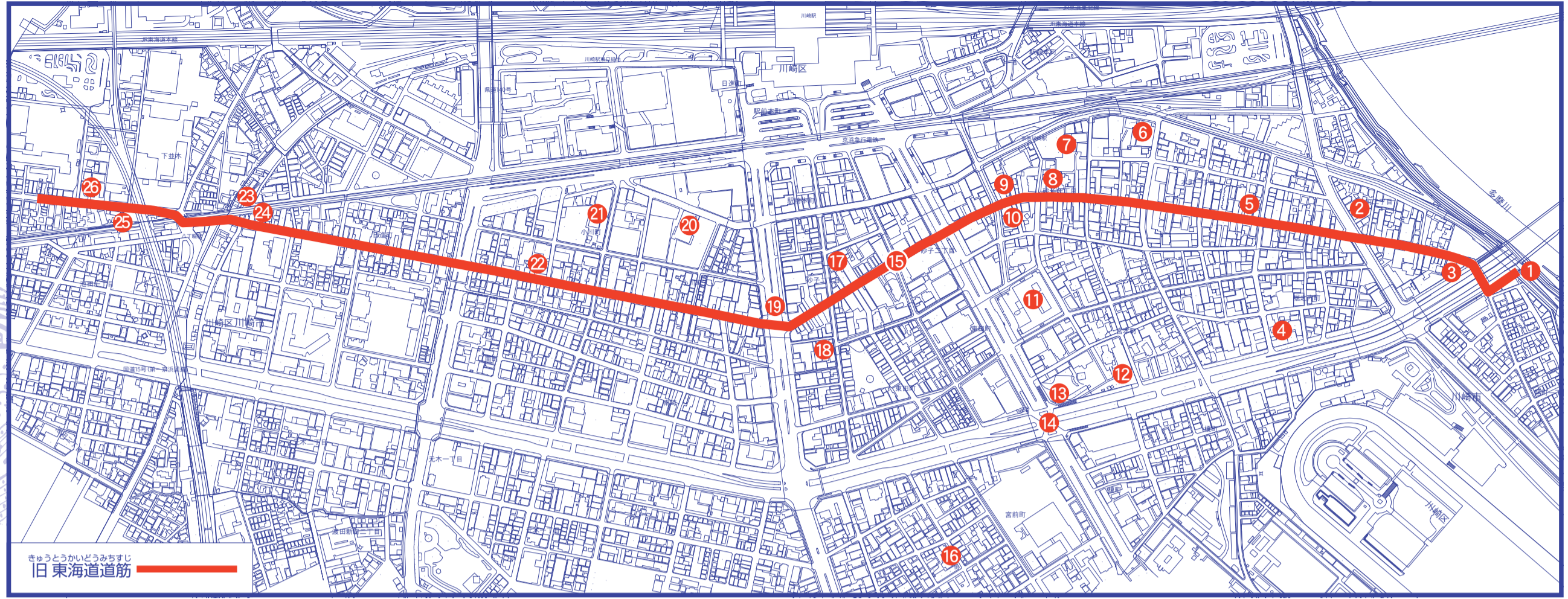
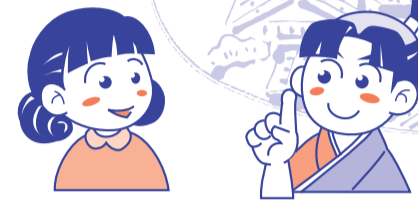


川崎宿

徳川幕府により、東海道の宿駅伝馬制度(街道沿いに宿場を設け、公用の旅人や物資の輸送は無料で次の宿駅まで送り継ぐという制度)が敷かれたのが慶長6年(1601)のこと、川崎宿はそれよりおけること22年後、元和9年(1623)品川から神奈川両宿の伝馬負担を軽減するため開設された。宿駅は小土呂・砂子・新宿・久根崎の四つの村で構成していました。

東海道川崎宿2023

江戸時代、東海道川崎宿ができた元和9年(1623)からちょうど400年目の2023年において、東海道川崎宿の歴史を活かしたまちづくりを地元の人々が中心になって進めています。2023年にはきみは何才で、川崎はどんなまちになっているかな? みんなと一緒に考えてみよう。



1 六郷の渡し

慶長5年(1600)六郷川(多摩川)に六郷大橋がかけられたが、元禄元年(1688)大洪水で流されて以来、明治7年(1874)まで、渡しが続けられました。明治初年の天皇、行幸の際には船橋で渡りました。



8 砂子の里資料館

東海道川崎宿をテーマにした資料館。浮世絵を中心に毎月かかわる企画展示を行っています。約200年前の東海道川崎宿の模写型も展示され、海風壁風の江戸町屋の外観は、川崎宿の当時の街並みを連想させてくれます。



15 佐藤本陣跡

別名、惣左衛門本陣といわれ、門構え、玄関付、181坪の建物でした。幕末には14代将軍家茂が京に上る際に宿泊しました。明治23年(1890)詩人佐藤惣之助がこの家で生まれ、大正から戦前にかけて活躍し、「六甲おろし」「青い背広」「人生劇場」など、今でも多くの人に親しまれている歌の作詞をしました。



22 京口土居(見附・棒鼻)跡

宿場の京側の出入口にあたる所が京口土居でした。そこには切石を積んだ土居があり、現在、馬崎病院のあるところが京口土居でした。



2 川崎稲荷社

社殿・鳥居は昭和26年頃再建され、基礎の土留に二ヶ領用水にかかっていた石橋の部材を使用、また社殿の下に、いわれのあるケヤキの大木の根株が眠っています。享保元年(1716)紀州藩主吉宗が八代将軍になるために江戸へ向う途中、この境内で休息したと言われています。



9 中の本陣

問屋場に向かい合う形で建っていた通称「中の本陣」は、正式には惣兵衛本陣といい、佐藤・田中本陣の間に位置することから中の本陣と呼ばれていましたが、江戸後期に廃業しました。



16 妙遠寺(日蓮宗の寺)

境内には二ヶ領(稲毛・川崎)用水を完成させた小泉次大夫と川崎中興の祖といわれた田中休庵の偉業を讃える「泉田二君功徳碑」・日純上人の供養塔・小泉次大夫夫婦の逆修塔・石川駿河守吉久夫婦の墓があります。



23 廃線跡

芭蕉句碑の後ろに、古いレンガ積み壁が見えます。これは、大正7年から昭和48年(1918~1973)まで、川崎から浜川崎まで走っていた、旧国鉄の貨物線の廃線跡。特徴あるイギリス積みのレンガです。



3 万年屋

六郷川の渡しから川崎宿に入ると、万年・会津屋・新田屋などの旅籠や茶屋がありました。特に万年は、奈良茶飯が評判でした。米国総領事ハリスや皇女和宮も泊まりました。万年から医王寺までを万年横丁と呼んでいました。



10 問屋場跡

江戸時代、公用で旅をする人達の便をはかるため人足と伝馬を常備していました。今でいう役所にあたります。



17 観行院・善光寺関東別院(天台宗の寺)

信州善光寺の別院で、本堂脇には中世の石板碑が置かれています。その中でも薬師如来の板碑は大変珍しいものと言われています。



24 芭蕉の句碑

「妻の種を たよりにつかむ 別れかな」元禄7年(1694)5月、故郷伊賀に向かった芭蕉は、見送りに来た門人たちと川崎宿のはずれの茶店で別れを惜しみ詠んだ句。作吟地に立てられた碑としては大変貴重なもので、江戸時代の川崎宿を偲ぶせる最も記念すべき遺産の一つです。



4 眞福寺(真言宗の寺)

本尊の薬師如来は、古くから眼の病気や多くの病気に効能があると信じられています。境内には、寛文5年(1665)銘の庚申塔があり、市内最古級、最大です。庚申塔の前にある石製香炉は国内でも古いものと言われています。



11 川崎市役所

地上39.6m、8階建てに相当する高さの時計塔がシンボルの川崎市役所本庁舎。昭和13年(1938)から現在に至るまで60年余、戦前、戦中、戦後を通じて使用され続けています。



18 大徳寺(浄土宗の寺)

境内には、徳上人の篤い信者で、念佛を唱えながら安らかに17才で往生したと伝えられる塩浜の名主、佐々木久左衛門の息子常太郎の墓、「江戸名所図会」にも描かれた川崎宿の茶屋「万年」の主人半七の墓があります。



25 無縁塚

江戸時代、災害や飢饉などで亡くなった身元不明の遺体を埋葬したのではないかとわれています。これら無縁仏の供養のため「供養塔」が建てられました。



5 田中本陣

本陣は主に大名、公家、旗本などが宿泊する施設で、門構え、玄関付、延231坪の堂々たる建物でした。本陣家の主人である田中休庵は、本陣、名主、問屋の三役を兼務し、六郷川の渡し船の権利を江戸側より川崎宿側に譲り受けて、宿場の財政を立て直しました。そして「民間省要」を著し、二ヶ領用水や酒匂川の治水に活躍し、幕府の勘定支配格(大名並み)に登用されました。



12 稲毛神社

平安時代河崎庄の鎮守。河崎山王社または堀之内山王権現と呼ばれていました。幕末に鎮座地の地名をとって稲毛神社となりました。境内には歴史的記念物が多くあり、宮座式などの伝統神事が引き継がれています。



19 小土呂橋

東海道が新川掘という排水路を横断するところにかかっていた橋で、昭和6年から8年(1931~1933)に埋め立てられたため、橋の欄干の親柱だけが交差点脇の歩道に保存されています。約280年前、ベトナムからきたソウが、この橋を渡って江戸に行きました。



26 カリン並木

江戸時代は松やケヤキの並木道で、現在はカリンの並木道となっています。春には白い花が咲き、秋にはたくさんの実をつけます。地元の人々が管理をして秋には収穫をしています。



6 一行寺(浄土宗の寺)

別名「閻魔寺」と言われ、閻魔様の座像があります。境内には川崎最初の寺子屋を開いた浅井忠良の墓と、富士講の西川満翁の墓があります。



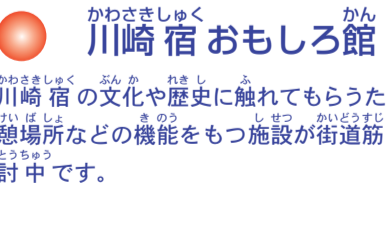
13 旧六郷橋親柱

大正14年(1925)、本格的な橋を建設することになり、鉄骨コンクリート製の旧六郷橋が完成しました。その後、昭和59年(1984)に老朽化により現在の橋と交代し、その象徴であった親柱は、近代化遺産として平成14年(2002)、稲毛公園内に再現整備されました。



20 ラ・チッタデッラ

昭和12年(1937)川崎で最初につくられた映画街。平成14年(2002)11月に「ラ・チッタデッラ」として生まれ変わったエンタテインメントスポット。イタリアの丘陵に造られた町、ヒルトウンをモチーフとしています。



川崎宿おもしろ館

川崎宿の文化や歴史に触れらうための情報拠点整備・休憩場所などの機能をもつ施設が街道筋に必要であり、現在、検討中です。



7 宗三寺(曹洞宗の寺)

鎌倉時代創建、勝福寺が前身と言われています。境内には遊女の供養塔と波多野家と青木家の墓石の頭部中央に「鳥八日」と刻まれた、いまだ解明されていない墓石があります。



14 川崎ハローブリッジ

平成5年(1993)3月、全国初のエレベーター付き歩道橋「川崎ハローブリッジ」が完成しました。橋の名は、公募で地元の小学生のものが採用されました。



21 教安寺(浄土宗の寺)

境内には江戸時代に建造された梵鐘で、市内に今でも残っている3つの中の一つがあります。また江戸中期に庶民から生き仏様と敬われた徳上人の六字名号碑もあります。山門前左側に建っている石灯籠は富士講の信者が建てたものです。

編集 東海道川崎宿2023
発行 川崎区役所
協力 NPO法人かわさき歴史ガイド協会
問い合わせ 地域振興課 ☎044-201-3136

※川崎区地域教育会議子ども会議のメンバーにもご協力いただきました。

